

洋書多読の授業の導入例

南山高等学校・中学校女子部 教諭 久留宮 一浩

1 はじめに

2017年度より、中学3年生から高校3年生まで、授業内で洋書多読の実践を行ってきた。多読に対する生徒たちの反応は様々で、中には英語が苦手に取り組みづらさを感じる生徒もいる。その中で「①辞書は使わない、②分からないところはとばす、③つまらなくなったらやめる」という多読の三原則を伝えた後に、文字が少なく親しみやすい絵本を読むという導入活動を行っている。

2 導入の手順

(1) ディスカッション

外国人の友達が日本語を学びたいと言った時に、どのような方法をすすめるのかを話し合ってもらい、実際に英語を使いながら楽しく学ぶことの重要性に気付かせる。

(2) 多読三原則の紹介

(3) 絵本の自由読書

文字が少ない絵本を1人3冊程度準備し、10分間で自由に読んでもらう。読む本がなくなったら、近くの人と本を交換して読み続ける。

(4) 本の紹介

ペアワークで、最後に読んだ本の内容を1人1分で相手に伝える。口頭で説明するだけでなく、本の絵を見せる。読んだ感想などを加えてもよい。

3 授業外・授業外での多読

導入活動を行った後は、授業内で時間を取り、多読の活動を習慣化する。2022年度の中学3年生は、毎授業の最初の10分間を多読の時間とし、1年間継続して行った。高校1年生、2年生の授業では教える内容が増えるので毎回の実施は難しいが、2週間に1度は図書館に行き、多読の時間を確保している。高校3年生では、文系の選択授業で週に1回50分の授業を図書館で行っている。図書館を訪れた際は、本を借りていくように強くすすめるようにしている。

4 まとめ

今回は導入の際の指導を体験していただくという形で発表を行った。多読の楽しさを伝えることはもちろん重要であるが、相手の話をしっかり聞く、集中する時は集中するなど、授業態度についての指導が支えになると考えている。現在、学校には7,000冊以上の多読用の洋書があるが、よりよく活用できるように、工夫しながら指導を継続していきたい。